

4 意味に基づく形容詞の分類

ここで本題の形容詞の分類を考える。形容詞がとりうる基本的統語形式、すなわちパターンを抽出すること自体は難しいことではない。本稿では以下の6つの基本パターンを認めることにする。

- (A) it is Adj. that
- (B) NP is Adj. that
- (C) it is Adj. to do
- (D) NP is Adj. to do
- (E) NP is Adj. prep
- (F) NP is Adj. *wh*-clause

4.1 心的態度 (ATTITUDE) と判断 (JUDGMENT)、記述 (DESCRIPTION)、感情 (EMOTION)

次の文を考えてみよう。

- (20) a. It is *apparent* that John likes Mary.
- b. I am *sure* you are sick.
- c. It is *important* that you be present at the meeting.
- d. I am *afraid* it will rain.
- e. John is *sure* to come.
- (21) a. It is *dangerous* for John to swim across the river.
- b. John is *tough* to get along with.
- (22) a. John is *slow* to react.
- b. Mary is *beautiful* (?to look at).
- (23) a. I'm *glad* that they are coming.
- b. I'm *glad* to meet you.

4.1.1 心的態度 (ATTITUDE)

(20a, c) は that 節で表現された命題に対する話し手の真偽・重大性といったことについての心的態度を表す。また、(20b, d) は that 節で表現された命題に対する文主語の確信・不信といった心的態度を表す。(20e) は、話し手の to 不定詞で表された行為に対する心的態度を表す。(20)の文はいずれも命題あるいは行為に対する心的態度を表すという点で共通している。このように、話し手の命題に対する心的態度は it is Adj. that あるいは、人主語 is Adj. that のパターンで表される。そ

れぞれのタイプの意味的相違については後に論じる。

(23a) の形容詞 *glad* は後に述べる感情形容詞で、that 節をとっているがこの that 節は、心的態度形容詞とは異なり、感情を起こさせた理由を表す。

4.1.2 判断 (JUDGMENT)、記述 (DESCRIPTION)、感情 (EMOTION)

(21a) の主節は to 不定詞で表された行為に対する話し手の善悪・難易などの判断を表し、(21b) の主節は to 不定詞で表された行為に対する文主語の難易などの判断を表す。これらはまとめて判断 (JUDGMENT) の形容詞という。dangerous のように it is Adj. for NP to do のパターンをとるものを *dangerous*-type、tough のように NP is Adj. to do のパターンをとるものを *tough*-type ということにする。それぞれのタイプにどのような形容詞があるかを示すために一部をリストする。これからあげるリストも同じであるが、代表的な用例としてあげた形容詞をタイプの名称に使う。(21a) のパターンをとる形容詞は、(21a) の用例で dangerous を使っているから *dangerous*-type ということになる。同じ形容詞がいくつかのタイプとしてあげられるが、それはひとつの形容詞はひとつの意味をもつわけではないからである。*dangerous*-type には accurate, boring, correct, dangerous, difficult, easy, economical, expensive, hard, hazardous, painful, possible, safe, tough, wrong などといったものがある。これらの形容詞は、具体的な行為についてその場限りの、つまり TEMPORAL (一時的) な善悪・難易の判断を述べるという共通の意味をもっている。

tough-type には difficult, easy, expensive, hard, tough といったものがある。*tough*-type の形容詞は、文主語に対して第三者が何かの働きかけをすることについての難易の判断を表し、文主語は働きかけの対象であることが特徴である。*dangerous*-type のうち、難易の意味をもつ形容詞は、問題なく (21b) のような人主語をとった *tough*-type でも使われる。

(22)も表面的には *tough*-type と同じパターンをと